

湯来南高等学校の現状と今後の方向性

湯来南高校の今後を考える会（仮称）

1

湯来南高等学校の歴史

昭和23年 広島県立廿日市工業高校三水分校及び水内分室として設置

昭和41年 広島県立廿日市高等学校砂谷分校として設置

昭和60年 広島県立湯来南高等学校として設置

平成 7年 普通科コース制へ移行（国際教養・情報文化・生活文化の3コース）

平成10年 英国タスカー・ミルワード校と姉妹校調印（後にハーバーフォードウェスト校となる）

平成27年 創立30周年記念式典開催

開校から73年経過しており、全日制本校として開校してからすでに36年が経過している。
延べ3400人の卒業生を輩出している。

2

本校の特徴

地形的には、佐伯区湯来町の砂谷台地に位置しており、山々に囲まれ四季折々の自然を感じることのできる環境で、教育の場としては最高に適している。

小規模校のため、部活動には人数の制約はあるものの、生徒数が少ないことで教師との距離も近く、生徒一人一人に対して手厚く応じることができる。

地域との関わりが強く、和太鼓部の訪問演奏や、地域の商品とのコラボ企画などで地域と関わることで社会性が身に付く。

英国ハーバーフォードウェスト校と姉妹校縁組をしており、毎年交換留学を行っている。2週間の長期に渡り生徒を受け入れるこのスタンスは県内でも本校だけである。

3

生徒数の推移



10年前までは、100人前後を維持していたが、近年では100人を下回り80人強で推移し、今年度においては63人まで減少した。

4

生徒数減少の要因

社会背景的要因

少子化の流れが止まらないことによる社会減が大きいと考えられる。

このことにより、地域の小中学校の児童生徒数も減少しており、スポーツなどの部活動においてもメンバー不足などの制約が生じていることから、志望校の選択肢から小規模校である本校は外れていると考えられる。

高校無償化により、私立高校の選択肢も増えたことによるものと考えられる。

個別的要因

地理的要件が考えられる。

五日市圏内から通学する場合43,610円～57,460円（3カ月定期、割引適用）の費用が発生する。

積雪時において通学が困難となる 等

5

生徒数が減少すると？

広島県教育委員会が策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」（平成26年）

○ 1 学年 1 学級規模の全日制高等学校については、各学校が学校 関係者、所在する市町及び市町教育委員会等で構成する「学校活性化地 域協議会（仮称）」（以下、「協議会」という。）を設置し、その協議会において、教育活動や部活動等において他校に見られない取組の強化等による活性化策を検討します。

その検討結果を踏まえ、各学校において、3 年間、市町と連携しながら活性化策を実施し、全校生徒数が毎年度、収容定員の 2/3（80 人）以上となることを目指します。以上の協議会の設置及び活性化策の検討・実施に係る 3 年間の経過した後、全校生徒数が 2 年連続して収容定員の 2/3（80 人）未満となった 学校については、協議会の意見を聴いて、次の①から③までのいずれかとします。

① 近隣の県立高等学校のキャンパス校

② 特定の中学校と緊密な連携による一体的な学校運営を行う「中中学 園構想（仮称）」への移行

③ 統廃合（市町立学校としての存続を含む）ただし、教育活動及び部活動において、全国トップレベルの特筆すべき実績をあげ、将来も同様の成果が見込まれる学校については、別途検討します。

本校は令和3年度「80人以下」に到達し、令和4年度も変わらない場合、①～③の検討に入ります

6

統廃合となった場合

現在通っている生徒の声

「寂しい」

「存続してほしい」

卒業生の声

「母校がなくなるのは寂しい」

「自分の子どもが大きくなって通わせなかった」

地域の声

「学校がなくなると地域が廃っていく。防犯上も不安が増える」

「これも時代の流れか。やむを得ない」

「なんとか食い止める方法はないのか」

7

食い止める方策は？

他校に見られない取組の強化等

本校では、これまで和太鼓部や生活家庭クラブで、地域に根差した活動を行っており、地域からも親しまれている。

また「オオサンショウウオこんにやく」の発案をし、地元企業がこれを販売し、地域経済にも寄与している。



これらの活動が統廃合を回避するための直接的な事由として認識はしていない（広島県教育委員会）

8

他校の取り組み例

大崎海星高等学校(大崎上島町)

「離島留学」と称して、町から助成する形で個人宅の下宿を整備、また町の事業として生徒寮を整備した。東京や大阪で学校説明会を開催している。(年10回以上)公営塾の設置。

加計高等学校(安芸太田町)

ライフル射撃部をPR。全国から受け入れを可能にするため、町の助成を受け生徒寮を整備。その他教育活動に年間25,000千円~40,000千円の助成を受けている。公営塾の設置。

佐伯高等学校(廿日市市)

女子硬式野球部、アーチェリー部をPR。全国から受け入れを可能にするため、市の助成を受け、個人宅の下宿の整備をするともに、受け入れ先の拡充を地域で取り組んでいる。

9

湯来南高等学校の今後の方向性

生徒たちへ対して

今後、メディアでも「統廃合」についての報道が流れる可能性もあるが、生徒たちにはこれまで通り、不安にさせたり気を取られることなく、思い出深い高校生活を過ごせるようPTA、地域で盛り上げていくことは必須である。

大人たちのできること

- ・ 現在の湯来南高校の状況を多くの方に知ってもらう必要性
- ・ 管内中学校へのPRの拡充
- ・ 市との連携強化の模索(要望活動・補助等)
- ・ 地域とのさらなる連携強化

10